

# 大学部活動におけるマネジメント要素の有用性

—特に水泳競技に着目して—

白石 利香 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 白木 孝尚

キーワード: マネジメント コーチング 大学部活動

## 1. 緒言

大学部活動のコーチングにおいて、コーチ自身が大学の教員である場合、授業など部活動の指導以外にも大学の仕事を行っているので、チーム目標の設定などのマネジメント活動にあまり関与できていないことが多い。

近年、マネジメントはビジネスの世界で「成果をあげさせるための手段」として注目され始め、同じようにスポーツ現場や教育に現場でも活用され始めている。

スポーツ現場にマネジメント要素が取り入れられることで、コーチからの一方的な指導だけではなく、選手自身が自分・チームの目標達成のために、自分がやるべき行動を考え、自発的に行動できるようになる可能性があると考えられる。

本研究は、大学水泳部の活動においてマネジメント要素がどの程度浸透しているのか、また指導者からのコーチングの中で、マネジメント要素がどの程度含まれているのかを明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法

2011年度日本学生選手権水泳競技大会に出場した大学にアンケート送付し、13校364名(シード校134名、関西上位校128名、関西上位校コーチあり50名、関西上位校コーチなし52名)の比較・検討を行った。アンケート内容は、プロフィール・選手のセルフマネジメントについて・コーチについて・チームについてを5段階評価で42問を質問し、43、44問(チームの強み・チーム目標)は記述形式で質問をした。

## 3. 結果と考察

「チーム目標以外に、自分で掲げている目標がある」が判別分析でも重要な項目として挙げられ、全質問の中で最も高い値を示した(表1)。チームで高い成果を上げるためには、チ

ーム目標を明瞭にした上で、チーム目標に従って、個人目標を設定することが重要である。このことから、選手達はチーム目標に納得した上で、個人目標を設定していると考えられるので、選手自身が勝手に意思決定を行わずチーム目標に向かって活動していることが考えられた。

	シード校	関西以外上位校	関西上位校コーチあり	関西上位校コーチなし	全体
平均値	4.64	4.61	4.64	4.63	4.63
標準偏差	0.61	0.60	0.54	0.49	0.59

フィードバック分析は、目標として設定した成果と実際の結果を比較することであり、新しい目標設定をする際に役に立つと考えられている。フィードバック分析を行う際には、集中すべきこと【強み】・改善すべきこと【改善】・勉強すべきこと【勉強】を考えることで、次の新たな目標が設定できると考えられている。【改善】【勉強】は、全グループで高い値を示したが、【強み】については関西上位校コーチなしが他のグループと比較しても低い値となっていたことから、コーチの存在が自分の強みの把握に影響している可能性があると考えられた(表2)。

	シード校	関西以外上位校	関西上位校コーチあり	関西上位校コーチなし	全体
平均値	3.63	3.62	3.77	3.18	3.67
標準偏差	0.95	0.87	3.21	1.05	1.86

また、関西以外上位校がコーチについての項目の値が低いことから、他のグループと比較して、コーチに対する評価が低いことがわかった。

シード校は、ほとんどの項目で高い値を示したため、チーム内の活動にマネジメント要素が浸透している可能性があることが分かった。

## 4. 引用・参考文献

中野明(2010)ドラッカーのマネジメント思考. 朝日新聞出版.